

献呈の辞

政治経済学部の重鎮として、学部はもとより大学の内外において、長い間御活躍を続けてこられた関場保先生が昭和四十八年三月をもって専任教授を退任されることになりました。学部創設七十周年を迎えようとする今日、文字通り「明大人」として大学の発展に寄与され、貢献されてこられた先生の業績を顕彰するとともに、先生の古稀をお祝いして本号を献呈致したいと存じます。

関場保先生は昭和五年に本学政治経済学部を御卒業の後、三カ年にわたり欧州、とりわけドイツ・ベルリン大学を中心に御研究を続けてこられました。帰国されて後、昭和九年に母校政治経済学部の講師に就任され、この度の御退任まで約四十年の長きにわたって大学の発展に専念されてこられたわけであります。先生は統計学をご専門とし、その端正なお姿どおり着実な御努力によって学界に広く貢献するかたわら、後進の育成に努められ、これまでに多くの俊英がその門下から輩出しております。

想えば、先生御在任の四十年間は日本にとってまさに激動の時期であり、同時に、大もその影響をまぬかれることのできぬ大変な時代でありました。特に、学徒動員など

のさいには、若手教員としての心労は並々ならぬものがあつたとうかがっております。また、戦後の大学再建と新制度移行の折には中堅教授から主導的地位にすすまれ、就中、昭和三十一年から四十年にかけては政治経済学部長として重責を担われ、学部の発展に御苦勞なされました。その後も重鎮として常に全体的視野から大学の発展に御尽力下さいました。これらの御努力に対し、本学より名誉教授の称号が贈られましたことは、当然とはいえ欣快至極でございます。

先生の御人柄や研究業績に関しては、本文で吉田教授が言及されますのでこゝでは触れませんが、まことに幅広い豊かな教養と学識を兼ね備えられており、今後先生と教授会を通じて直接お会いする機会が失われてしまうことには堪えられない思いが致します。こゝに心からの感謝の意をこめて、この拙文を献呈の辞とし、今後ますます先生が御健勝であらせられ、なお、われわれ後輩の師範として御活躍下さることを祈り上げる次第でございます。

昭和四十九年早春

政治経済学部長

白 石 四 郎